

南山大学人類学博物館の資料収集について

1. 南山大学人類学博物館でのコレクション収集の方針

広義の人類学の専門的博物館として、南山大学人類学博物館では、世界中の、あらゆる時代の学術資料を収集することを理想としています。しかし、実際には収蔵・展示スペースといった物理的な制約等から、収集資料に一定の基準を設けざるを得ません。そこで、ここに資料収集の方針を掲げておきます。資料の寄贈を希望される方は、ご確認ください。

2. 収集資料の特性による評価の基準

(1) 資料の種類

人類学博物館では、物質資料としての考古資料・民族誌資料・歴史資料・民俗資料・現代生活史資料およびその資料の背景情報の記録類を、以下の要件を満たすものについて収集します。

① 考古資料（含歴史資料）

- ア 出土地および原所有者が明確である資料。
- イ コレクションとしてのまとまりがある資料。
- ウ 収集者の収集意図が明確である資料。
- エ 造形的に評価できる資料。
- オ この分野に関する図表・写真・フィルム・レコード等。

② 民族誌資料

- ア 収集地が明確である資料。
- イ 収集年代が明確である資料。
- ウ コレクションとしてまとまりがある資料。
- エ 収集者の収集意図が明確である資料。
- オ 造形的に評価できる資料。
- カ この分野に関する図表・写真・フィルム・レコード等。

③ 日本の近現代の生活史に関する資料（現代生活史資料（含民具））

- ア 収集地・原所有者が明確である資料。
- イ 収集年代が明確である資料。
- ウ 用途・機能などがわかる資料。
- エ 入手（購入）の経緯がわかる資料。
- オ 使用当時の世相を反映していると評価できる資料。
- カ 背景情報となる文書等（取扱説明書・領収書等）がある資料。
- キ 当該資料に関する口承等（思い出、エピソード等）がある資料。
- ク この分野に関する図表・写真・フィルム・レコード等。

(2) 留意点

① 収集年代や地域については限定しません。

② 南山学園および南山大学関係者によるコレクションについて

南山学園及び神言修道会関係者の所有物で、なおかつ南山の歴史にかかわる史・資料については、その受け入れについて、南山アーカイブズと協議します。

③ 量について

対象資料の量が膨大な場合は、受け入れられないこともあります。